

私の出発点

辺見庸さん
『自動起床装置』

個がのみ込まれる悲しみ

「社が起床自動化というのをやるらしいなあ……」
自動覚醒機。起床自動化。二つの話はすべーつに焦点を結んだ。パイ
トに頼らず、機械を導入して「起こし」を自動化する計画……。しかし、
どのような装置かだれも知らなかった。どうやって自動化するかも。

(『自動起床装置』文春文庫より)

現代都市文明のあり方と、
激しい生存競争の意味を問う
小説である。共同通信記者と
してベトナムのハノイ勤務を
終え、東京に戻ってから発表
した。バブル経済絶頂の頃。
個としての人間が物質にのみ
込まれゆく悲しみは、ベトナム
を知るゆえだ。「1980
年代末のベトナムはカンボジ
ア優位に対する国際的な経済

▲作品紹介▼

「ぼく」としては、東亜国
際通信社の仮眠室と「宿
泊センター」で、指定され
た時間に宿直の記者たちを
起こす「起こし屋」のアル
バイトをしている。ある日、
「自動起床装置」が導入さ
れ始める。ゴム引き布袋と
ホース、送風機、タイマー
を組み合わせ、宿直者の体
を持ち上げて起こすとい
うのだが……。現代文明の衰
弱を描く一作。『文学界』
1991年5月号に発表
し、同年の芥川賞を受賞。
辺見さんは当時46歳、共同
通信外信部長だった。

制裁のため非常に貧乏で停電
ばかり。ニュースパリエーは
低く特派員の仕事が少ない。
暗闇の中、思考は外よりも内
へ向かっていったのです」
特ダネ記者だった。北京特
派員時代の87年には、中国共
産党の機密文書をスクープ
し、国外退去処分を受けた。
「すれっからしでしたね。兵
隊(部下の記者)たちには、
特ダネを抜かれたら必ず抜き
返せと言っていました」。
だが激しい取材競争に倦んで
いく。ワシントン特派員の話
を断つてのベトナム行きだっ
た。会社はあきれ返ったとい
うが「僕の人生で、あれほど
の正解はなかった」。天安門
事件にベルリンの壁崩壊と、
社会主義の幻想が崩れる激動
のさなか、内省する時間を得
たからだ。

小説は共同通信社の宿直室
がモデルだ。「昔の外信部の
泊まり(宿直者)は午前2時
過ぎから仮眠し、時間を申告

しておくと起こしてくれたん
です」。小説の起こし屋はア
ルバイト学生だが、実際は正
規の職員だったという。執筆
の頃に導入された自動起床装
置は、シーツの下に敷いた袋
がセットした時間にくら
む。「非常に不快でした。あ
のへんから、社会のグローバ
ル化やデジタル化、そしてリ
ストラが始まったんですね」
温和で幻想的な風合いであ
る。「ぼく」も、装置に慣
れも優しい。彼らをしてこす
せる荒くれ記者たちは子供
っぽい。「意外だったのは、後
半で聡が語る文明批評の部分
が文壇からは毛嫌いされたこ
とです。これは不要と言われ
て驚きました」「飲み代稼ぎ
のために雑誌に小説らしきも
のを寄稿したことはありまし
た。純然たる小説はこれが
初めて。高校生が書いたレベ
ルと思っていたのに、芥川賞
贈呈式の大パーティーには僕
の親の席まで用意されてい
て、あきれたよ。ちょっと口
の悪い冗談を作家は愛する。

92年、飢餓や紛争の中で「食
う」ことを追う旅に出た。94
年刊『もの喰う人びと』は1
00万部超の大ベストセラー
に。外信記者のスター街道に
背を向けて純文学を世に問う
たことで、取材手法は変わっ
た。「外面の出来事だけにな
く、人間の内面を追究するた
めに一つの地域で何週間も粘
って物語を探しました」。96
年、共同通信社を退社した。

以後、民主主義の揺らぎへ
の危機感を繰り返し書いてき
た。2011年の東日本大震
災後の日本社会の保守化を前
に、作家は「一層悲観的になっ
た。「大きくなれば、ファシ
ズム化、国家主義化です」
その思いの集大成が評論
『1★9★3★7』(15年刊、
増補版が16年3月刊)だ。37
年に日中戦争が始まり、日本
軍は南京大虐殺を起した。
戦争を描いた文学を横軸に、
中国に出征した自らの父を縦
軸として、奮行をなかつたか
のようにしてきた日本人とは
何者かを考え抜いた。自分だ
ったら、その場で「やめろ」
と言えたかどうか。自己の内
面を追い詰める。今の日本社
会はずべてが翼賛化してい
た30年代に等しく、過去に
そ未来がある……。時代の妖
気を撃つ渾身の書である。
「僕個人の落とし前を付け
るために書かざるを得なか
った。個がのみ込まれる速度は、
『自動起床装置』の頃よりも
増しています」。のみ込みつ
つあるのはもはや物質ではな
い。国家的暴力に満ちる、い
つか来た道だ。好きな冗談を
口にする余裕もないのだろ
う。作家は書きかけの原稿が
待つ自宅へサッと戻ってい
た。

【鶴谷真、写真も】

＝毎月1回掲載します



＝東京都内で

展

日本館出品作家の岩崎貴宏
さん(左)とキュレーター
の藤田のNANKO

著名作家50人の肖像

ランニングで使うデ
ジタル機器を披露する角